平成 28 年度
新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

蓑毛小林遺跡（みのげこばやしいせき）

主催　（公財）かながわ考古学財団
共催　秦野市教育委員会

現在かながわ考古学財団は、秦野市内で複数の遺跡を発掘調査しています。これは中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査で、これらの発掘調査では旧石器時代から近世までの人々の暮らしを示す「遺構（いこう）」や「遺物」が数多く発見されています。

蓑毛小林遺跡は平成 25 年 12 月に調査を開始しました。この遺跡は小田急小田原線秦野駅から北へ約 3.5 ㎞の秦野盆地北東部、丹沢山地のふもとに位置しており、北側の丘陵部から続く南向きの緩斜面に立地しています。標高は 197 ～ 199mで、西側 100m には金目川（かなめがわ）が、東側数mには小蓑毛沢（こみのげさわ）が流れています。

この遺跡からは古墳時代を除く旧石器時代から近世までの遺構や遺物が見つかっています。近世から古代までは平坦で南向きの地形を利用して、耕作地のほか、掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）や半地下式の倉庫と考えられる建物を建てたり、近世には一部が墓地として利用されていました。弥生時代と縄文時代には土坑（どこう）が多く掘られ、その大半は動物を狩るための落とし穴と考えられます。一方で人々が寝起きをしたような住居は、全時代を通して見つかっていません。遺跡内には複数の時期の土石流と考えられる痕跡が見つかっており、こうした災害が一因と考えられます。

特筆すべきは昨年 10 月から行っている遺跡東端部の旧石器時代の調査です。この調査では約２万～２万５千年前の複数の時期の生活痕跡が見つかり、出土した遺物の合計点数は、県内の旧石器時代遺跡としては最多となります。

◀秦野市内で調査中の遺跡

かながわ考古学財団は現在、秦野市内で複数の新東名高速道路建設に伴う発掘調査を実施しています。

蓑毛小林遺跡はその中でも東端に位置し、東田原象ヶ谷戸（ひがしたはらぞうがやと）遺跡、寺山中丸（てらやまなかまる）遺跡、寺山角ヶ谷戸（てらやまかくがやと）遺跡が近接しています。

中でも寺山中丸遺跡と蓑毛小林遺跡は秦野市内でも数少ない旧石器時代遺跡となっています。

【蓑毛小林遺跡の「尾根」と「谷」】

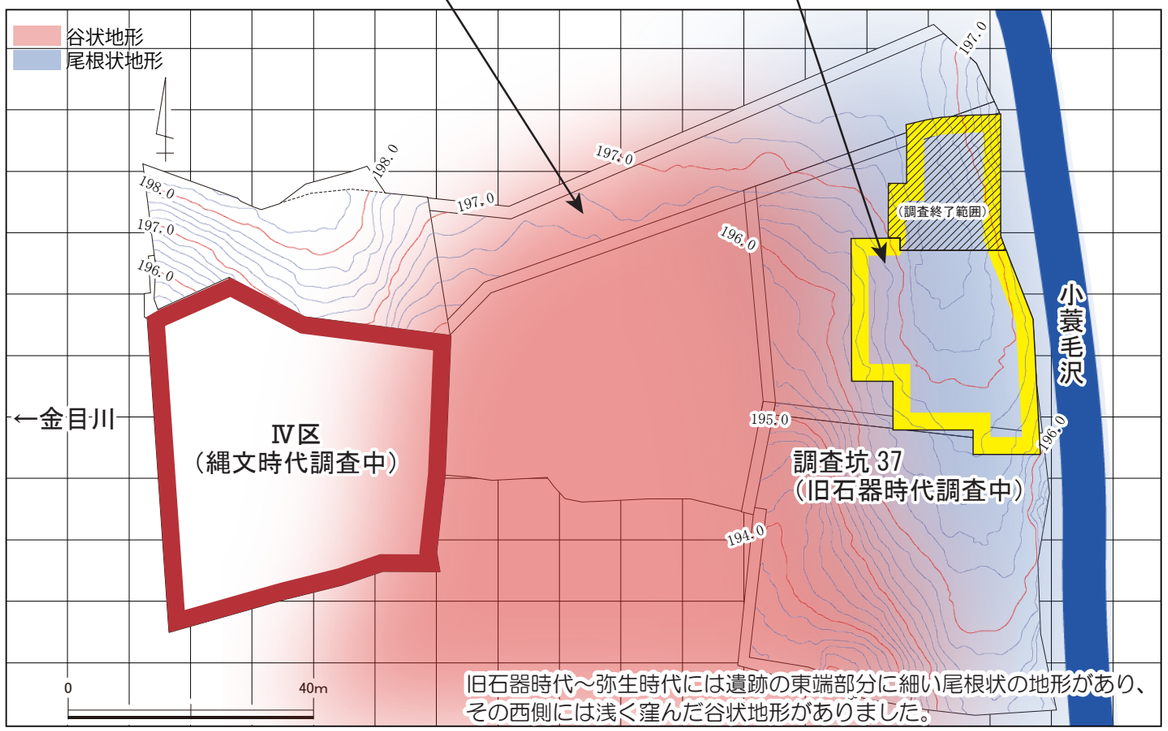
蓑毛小林遺跡の現在の地形は比較的平坦ですが、弥生時代、縄文時代、そして旧石器時代にはやや起伏のある地形でした。

旧石器時代に続く縄文時代と弥生時代には多数の落し穴が発見され、当時の人々が起伏に沿って歩く動物を狙って落し穴猟を行っていたことが分かります。

旧石器時代の遺物が発見されたのは、ちょうど尾根の上になります。谷の部分からは複数回の土石流・土砂災害痕跡が見られることから、人々はこうした場所を避けてより標高の高い尾根上で生活していた可能性が考えられています。

〈旧石器時代の土石流痕跡〉
土石流によって運ばれた大量の石

〈旧石器時代の石器〉
約２万年前の石器（槍先形尖頭器（やりさきがたせんとうき））
約２万５千年前の石器（ナイフ形石器、掻器（そうき）、角錐状石器（かくすいじょうせっき））



おおよその年代

35000年前	15000年前	2500年前	1700年前	1300年前	800年前	400年前	150年前
旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	古　代	中　世	近　世	

※矢印は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示したものです。
※この内容は調査段階のものであり、今後の調査成果や出土品等整理などにより評価を変える場合があります。